

12/Nov.2012 ウドムサイ→ダイエンビエンフー（ベトナム）への移動日

- 08:00 ウドムサイのバスターミナル
- 09:00 ダイエンビエンフーに向けバス出発
- 10:56 バス集結場（路線バスの結節場となっている）
- 11:07 途中の道路交通分岐点のまちを通過
- 12:57 食事処で昼食
- 13:53 ラオス・ベトナムの国境到着
- 14:44 イミグレーションでベトナム入国
- 16:00 ダイエンビエンフーのバスターミナルに到着
とりあえず、バスターミナル近くのゲストハウスを確保
街歩きをして、明日からの宿泊施設を物色。
- 18:00 ゲストハウス近くのレストラン？（まちの食堂）にて夕食



←ウドムサイのバスターミナルは一か所。到着したターミナルである。食事処で麺で朝食。150円。右のバスに乗り込む。9:00出発予定。約7時間の行程である。



←ほぼ満席。半数が外国人観光客。ほとんどがフランスから。途中で乗り込む者あり、補助席も埋まってくる。

各路線のバスが集結する。トイレ休憩を兼ねて停車。出発から2時間。Phongsaly province transportation port とある →



←例によって、このような車窓風景を見ながら、バスはひたすら走ります。まちの郊外の平坦地を抜けると山の地域に入ります。橋の下には、温泉施設があるようだ。深い山中を延々と走ることになります。途中からは工事の悪路。ホコリに悩まされる。



Oudomsay→dien bien phu (Vietnam) 間を赤の破線を走る。途中より地図上も黄色線で国道ではない。この部分が拡幅工事中未舗装の悪路。ベトナムに入ると一層の細い悪路になる。

↓ 11 : 〇〇道路交通の分岐点の町に入る。Pak nam noi の町と思われる。



↑ 左方向に入ると、phongsali (ポンサーリ) に通じる。北部の主な町のひとつ。標高 1,400m。中国国境の町。多くの少数民族が行き交うまちとして知られる。我々は右に道をとる。ポンサーリに向かうツーリストが我々のバスのツーリストと案内書を広げ会話している。



↑ ou 河だろうか。橋の架け替えと旧道を付け替えてショートカットする工事を施工中。完成した橋を渡り終えると、前触れもなく停車。カギ付きの柵で閉鎖。関係者を呼び、料金徴求され通過。2万Kとか。



←ベトナムとの共同事業と言うが請負業者は？この地方の工事現場の管理は乱暴すぎる。残土捨て場くらいは設計しておくこと。自然破壊につながる。使用重機は三菱だ。



←→橋を渡って、付け替えの
新道は工事未了。旧道を通る。
小河川からの水が道路に浸水して
いる。ものともせずに通過する。



ランチタイム、食事を採って休憩



←左の看板の店で食事。駐車場は無く、一旦バスは離れる。右は別のバス。ケースの料理を指差して注文。ご飯に豚肉の生姜焼き乗せて丼だ。それにスープ。250 円。外国人観光客は殆ど口にしない。バスから降りて休憩し、手持ちのスナックを食する。同じテーブルにフランス人が一人同席。このような食事が食べられるかと聞くと、問題ないOK。工事従事者らしい者数人が食事中。



周辺の様子



↑「ドラッグは悲しさと苦痛をもたらす」との啓発。誰を対象にした啓発か？黄色の看板はゲストハウスの宣伝



↑食事処の前方丘に小学校が。下校時なのか、人やこどもの通行でにぎわう。



←コーヒーの換金作物の栽培を奨励する看板。3年後から毎年収益〇〇が見込める。具体的。中国のコーヒー会社。



←観光客インフォメーションセンター250m先とある。同乗のフランス人が足を運んだようだ。何もなかったと帰ってきた。



←ベトナム国境に近く、ベトナム語の看板が見られる。Civil engineering incorporation Km30+00÷km40+00とある。何のことか？



↑店の前でバスが待つ。再び乗り込む。バスはトヨタ。ヒュンダイではない。

ラオス側国境施設に到着。出国審査を受ける。



←↑国境施設というものの、物々しい佇まいである。ここで出国審査。日本はビザが不要。簡単に出国審査終了。数日後、再度、入国審査を受けることになる。
 左は入国審査。看板には、ポンサリ県入国チェックポイント。ベトナム社会主義者共和国ディエンビエンフー県の支援による建設。支援金は1,500,000,000（15億）ベトナムドンと書かれている。600万円である。このゼロの多いのには閉口する。

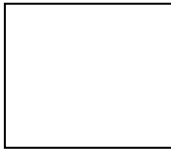


←生活物資がバイクでベトナムから入る。税関審査を待つ。

ベトナム側国境施設に到着・入国審査を受ける



←↑オフィサーの握手を受けて、ホーおじさんの挨拶で入国する。入国審査の事務官は懇切丁寧、ディエンビエンフーの町の様子、ハノイへのバスの便、乗り方など説明する。拳銃の果てに、ラオスKからベトナムドンへの両替もするという。自分のポケットからドン札を出してその場で交換。Kや\$から交換。レートは？手数料は職員の手しに？気になる。我々は、ラオスに戻るため、その必要なし。



←動画

ウドムサイから工事中の橋までは、窓を開けて走れます。例によってけたたましい警笛で人や車をおっばらいながら。ミュージックのサービスつきです。



←動画

大変な山中を走ります。拡幅工事中です。大型の工事車両がしきりに通行。ここではもはや、ホコリで窓が開けられません。ベトナム国境まで続きます。



ベトナム国境を超えると、道路は狭く、穴ほこ多く、急カーブの連続で、道路事情はさらに悪化します。しかも、巨大な採石場があり、大型のダンプカーがしきりに、行き交います。

途中、山中に逃げた水牛を探しに来た山の民の便乗などがあり。変化に富んだ道中です。

低地に降りてきて、ベトナムの水田風景が見られようになるとホットする思いになります。いよいよデイエンビエンフーの町が近づきます。

町までは、両側に街路樹の古木が見られる永い一本道が続きます。両側は広大な水田地帯です。



↑ベトナムの水田風景が見えてきました。水牛も見えます。このあたりから、デイエンビエンフーまでは、両側に街路樹の古木を備えた直線道路が続きます。映像でよく見た風景である。バイク、子供たちの自転車、大型トラック、ダンプカー入り乱れての相当の交通量である。

16:30 デイエンビエンフーのバスターミナルへ到着です。約7時間30分。バスを降車するなり、外国人ツーリストと見て、「ハノイ」「ハノイ」と何人もが呼びかける。ハノイ行きのバスへの客引きである。加えて「バイク」「バイク」の連呼。バイクタクシーの客引き。荷物を持って動き出すと、ゲストハウスの客引きに会う。この活発な人の活動はラオスと異なるものである。ここは様子がよくわからない。ひとまず、客引きの声に乗ってバスターミナル近くのゲストハウスを確保。後ほど、街歩きをして、次の日からの宿泊施設を物色することとする。ターミナル付近はゲストハウス、食事処、コーヒーの飲める店、ショップなど、旅行者に便利。ハノイはバスでさらに、12時間の距離。450 km先。リゾート地サパに向かう旅行者が多いらしい。



←街歩きで早速、こんな物が。ラオスの村で家の守り神として住みついているトカゲ。ここでも、食するようだ。



←宿の近くで食事。野菜と豚肉を炒めたもの、焼き飯、ビールはハノイとタイガー。300円程度。タイガーは、後日、偽物と判る。ラベルにトラのデザインのみ。タイガーの文字なし。